

財團 協調會福岡出張所

濃密思想に對する政府の斷乎たる處理を要求せられん事を切望して止まず、しかして尙政府にして其の聲明せるが如き「國体明徴」の誠意無之ときは政府當局が既に美濃部思想の擁護者たるを表明するものなれば直ちに軍部大臣の椅子を去らしむべし、吾人は皇國内外益々多端なるに鑑み國民皆兵の原義に基き、飽くまで我皇軍が絕對の主眼を保持せん事の爲に取て謹白す

皇紀二千五百九十五年七月十日

四日本國民大會

陸軍大臣 林 銑 十 郎 閣 下

海軍大臣 大 角 岑 生 閣 下

財團 協調會福岡出張所

宇垣氏に對する報告文

貴下は過去の政治生活に於て既而政黨財閥其他被改革分子と不可分の情實にある人なり、今や國家の改新を要する切なる時機に上京し政界に野心を抱くが如きは畢竟齷齪、岡田内閣同様、に公武合杯を果するものにして國家の改新を阻害するものなり、又自ら立つて過去の情實と斷て革新の斷行を爲さんとするは軍人としての情實を無視し其の廉恥心を疑ふ可きものなり、依つて貴下は現下の時局に於ては如何なる事情の計にも出馬すべき立場に非ざる事を自認し速かに離任して政界の惡氣流を除去し軍人本來の大義明分を正しふすべし。